

北海道師範塾
「教師の道」

塾頭通信

第463号 平成24年12月26日

善意

私が運営責任者をしている障がい児の施設に対して、先日「伊達直人」と名乗る方から現金の寄付がありました。去年は「赤胴鈴之助」と名乗る方からランドセルの寄付を頂いています。

送り主がどういう方かは存じ上げませんが、その篤い志に感謝しています。

「伊達直人」というのは、漫画「タイガーマスク」の主人公の名前ですが、この名前で群馬県内の児童施設にランドセルが送られ、それが大きく報道されたのは2010年12月のことでした。それ以来、全国各地で、「伊達直人」、あるいは「赤胴鈴之助」等の名前で、児童施設への寄付が連鎖的に行われるようになっていきます。こうした動きは、漫画のタイトルに因んで「タイガーマスク運動」といわれていますが、全国的な広がりや規模などから見ても、大変多くの方々の善意がこの運動に係わっていると思われれます。

寄付をしたいけれど、騒がれたくないので匿名で寄付するというような事は良くある事ですが、「伊達直人」と名乗る事で何かの思い、例えば「逆境に負けるな」というようなメッセージも込められているのかも知れませんね。

また、「タイガーマスク運動」とはいつても自然発生的に広がったものであり、一時の流行に終わってしまう可能性があったのですが、今年もまた、私共の施設に対して温かい思いを掛けてくださった事に感謝しています。

「善意」と一口にいいますが、いざそれを形や行動に表そうとすると意外に難しいものです。そういう経験をされた方は多いのではないのでしょうか。

車内でお年寄りに席を譲ることから、困っている人に手を差し伸べる、施設などに浄財を寄付する。こうした事は簡単にできそうで、いざやろうとすると結構勇気がいるものです。

良く「日本人はシャイだ」といわれますが、他人に善意を示そうとする時は、殊にその傾向が強いように思います。それは、日本人の「奥ゆかしさ」といい換えても良いかも知れませんが、でも、折角良い事をしようとしている筈なのに、自分の行為に対する周りの目が気になったりして、きっかけを失ってしまう事も少なくありません。

そうした中で、自分が「伊達直人」や「赤胴鈴之助」を名乗る事で匿名性が担保

され、しかも、善意を実行する勇気が持てるとすればとても良い事だと思います。また、「伊達直人」や「赤胴鈴之助」を名乗るという一種の遊び心も、「タイガーマスク運動」の広がり的重要因素ではないかと思います。

日本にアメリカのような寄付文化を根付かせる事は難しいかも知れませんが、アメリカとは違う形で、日本にも日本らしい寄付の文化が広がる事を期待しています。

私は、改めて申し上げたいと思います。

「伊達直人さん、ありがとう」（塾頭：吉田 洋一）